

働く千カラ ★ さっぽろ流

Vol. 2

若者のアイデアが詰まった洋服を
札幌から発信したい



PROFILE
田島 史織さん
東京での会社勤務を経て、札幌で洋服の製造・販売を行う「ザ チャリオット企画」を起業。稚内市出身。28歳。

「超就職氷河期」といわれる昨今。就職先を道外に求める人もいる中、札幌で働くことを選び、生き生きと仕事をしている若者がいます。このシリーズではそんな元気な若者にインタビュー。札幌で働く理由や仕事に対する思いを語ってもらいます。

— 昨年2月に起業されたのですね。
はい。30代の女性向けに、ワンピースをインターネット販売する会社を立ち上げました。起業前は、東京の会社で、洋服の企画やデザイン、販売などに携わってききました。
— 札幌での起業を考えた理由は？
北海道にはいいアイデアを持ったデザイナーの卵や、流行を生み出せる人材がたくさんいるのに、就職の間口が狭く、みんな東京に出てしまう。そんな若者を受け入れる雇用の場を私がつくれば、と思ったのがきっかけです。
— 起業する際に、市のセミナーや支援制度を利用していますね。
はい。東京での仕事を辞めて札幌に戻り、広報さっぽろを読んでいた時、創業時のノウハウや心構えを学べるセミナー「起業道場」の記事が目に入り、受講しました。その中で、創業後3年間、さまざまなサポートを受けながら経営の基礎を築ける「スタートアップ・プロジェクトルーム」という事務所の存在を知り、ここでなら私にもやれる、と思いい起業しました。
— 実際に制度を利用してみて、いかがでしたか？
起業したいという気持ちはあっても、人脈や資本力は乏しい。...



着る人の思い出の一部として、記憶に残る服を作りたい、と話す田島さん

い。そんな私にとって、この「スタートアップ・プロジェクトルーム」は理想的な事務所です。コンサルタントの方と気軽に経営や資金繰りの相談ができたり、新店舗の情報を提供してもらえたりするので助かっています。また、部屋貸しの形で20社の事務所が並んでいるので、他の社長さんの仕事ぶりや熱意を肌で感じることもでき、いい刺激になっていますね。
— 起業を考えている若者にメッセージをお願いします。
起業から1年半が経ち、私自身、会社を軌道に乗せる大変さを実感しています。その中で、社員を雇わずに会社を続けられたのは、仕事を支えてくれる人や環境に恵まれているおかげです。これから起業を考えている方は、周りの人に自分の熱意を伝えることから始めて、夢の実現に向けた一歩を踏み出してほしいです。

田島さんが活用した支援制度

スタートアップ・プロジェクトルーム

新たな技術やビジネスモデルを持つ創業後間もない企業が、安価な費用で借りられる事務所です。経営について相談できる体制も整っています。入居に際し、事業計画書などによる審査あり。次回は11月の募集を予定しています。

問い合わせ先 産業振興センター ☎820-3122

所在地 白石区東札幌5の1産業振興センター内

ホームページ www.sapporosansin.jp/start_up_pro/index.html

初期投資なしで事務所が持てます

事務所を借りるときに負担となる敷金などの初期投資が掛からず、月々の家賃も格安です。若い方が起業にチャレンジするには絶好の場所です。

産業振興センター 佐々木 高明さん

18ページに掲載しているセンターのお知らせもご覧ください。

